

## 県産野菜の農薬残留モニタリング調査



図1 栽培中のニラの様子



図2 分析用サンプル

表1 ニラで検出された成分の農薬登録情報および残留農薬濃度

農薬の用途	農薬登録情報			最高検出濃度 <sup>2)</sup> (ppm)
	登録農薬名	有効成分名	残留基準値 <sup>1)</sup> (ppm)	
殺虫剤	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド	5	1.82
	ダントツ水溶剤	クロチアニジン	15	3.41
	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン	10	7.95
	アルバリン顆粒水溶剤			
	アグロスリン乳剤	シベルメトリン	6.0	0.22
	スピノエース顆粒水和剤	スピノサド	5	2.90
	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム	2	0.31
	ハチハチ乳剤	トルフェンピラド	10	4.93
	トクチオン乳剤	プロチオホス	0.1	0.02
	殺菌剤	アミスター20フロアブル	アゾキシストロピン	70
ストロビーフロアブル		クレソキシムメチル	25	9.72
オンリーワンフロアブル		テブコナゾール	10	1.03
リゾレックス水和剤		トルクロホスメチル	2.0	0.02
アフエットフロアブル		ペンチオピラド	20	2.78

1) 財団法人日本食品化学研究振興財団ホームページ参照(平成30年3月19日現在)。

2) H28、29年度調査の最高濃度。サンプリング年月日(調査農家数): H28; 平成28年12月15日(31戸)、H29; 平成29年11月24日(30戸)。

当センターでは、農薬の適正使用を推進するため県産野菜の農薬残留モニタリング調査を実施しています。平成28、29年度は県内で生産されたニラを対象に、農薬90成分の残留濃度を調査したのでその結果を報告します。

2年間の調査で検出された成分は13成分ですが、何れもニラに登録のある農薬であ

り、全ての成分で残留基準値を超えるものではありませんでした(表1)。

以上より、本県のニラ栽培において、農薬が適正に使用されていることを確認しました。今後もモニタリング調査を継続し、農薬の適正使用に関する意識の啓発を図ります。

(農薬管理担当 森田展樹 088-863-4915)